

apo

Product for clients

Career Power Life & Information Plaza

Powered By CareerPower 株式会社 キャリアパワー

Vol. 76

2017.3 Spring

—想いは必ず実現する。—

「私だけの想いではなく、

今の成果は皆の想いの結集である。」



立正大学図書館  
◀館長  
友永 昌治様



品川学術情報課長▶  
岩場 静子様

Top Interview

巻頭インタビュー

「モラリスト×エキスパートを育む」をブランドビジョンに掲げ、430余年という長い伝統を誇り、総合大学として発展し続けている立正大学。江戸時代の和古書を中心に、貴重書、特殊資料などを開架している古書資料館。また「RiLLCom(りるこむ)」「RiLLPort(りるぽーと)」など独特な施設・環境作りも充実している図書館。今回はその図書館で館長を務めておられる友永昌治様、品川学術情報課長の岩場静子様にお話を伺いました。

### 先の時代を見据えた「モラリスト×エキスパート」を考えていく。

まず、貴学の教育ビジョンにおける図書館の役割についてお聞かせください。

友永:本学では、真実、正義、平和の建学の精神に基づき「モラリスト×エキスパート」を育む。」をブランドビジョンとして掲げております。これは「モラル」を基盤として各個が追求すべき専門分野を主体的に見つけ、深め、議論し、行動を起こし得る学生の育成を目指すとの宣言です。

現代は、単に専門分野の知識や技術があれば事足りるという時代ではありません。例えば、インターネットの発達は今まで埋もれていた局所的、周縁的、境界的な事々を日々の出来事と同じようにWeb上で発信し、それをアクセスする何千何万何億もの人々において、既存の体制、文化、社会、経済、政治、思想、そして知識と技術に対する信頼が揺るがされ相対化されるという事態になっています。こうしたグローバル化の渦中ではいかにして多様な価値観や文化と共存すべきかが重要な課題となり、視野の狭い独りよがりや無責任な他者追従は時代の逆行です。社会に人材を送り出す大学においても、他者との協働の下で広い視野からモラルと思考を育み、全体に対する配慮の下で主体的に考え行動できる人材育成が求められています。

図書館では、教育研究に資する各種メディアによる図書資料提供、レファレンス業務、機関リポジトリ運営などを当然行っていますが、学生さん達の協働を実現し主体性を育む場として「RiLLCom(りるこむ)」「RiLLPort(りるぽーと)」「古書資料館」などの施設を提供しています。これらのラーニングスペースは将来的にはブランドビジョンを背景とした本学教養教育体制の中に位置付けるべきものと考えますが、そのための礎石作りとして現在図書館が管理運営しています。

### 大学職員とアウトソーシング。この両輪で図書館を活性化していきたい。

次に、アウトソーシングの活用についてお聞かせください。

岩場:品川図書館では「遊及入力を中心としたデータ入力業務」と「閲覧サービス業務」のアウトソーシングをキャリアパワーにお願いしていますが、アウトソーシングを導入してから業務効率の向上や利用者サービスの標準化によるサービスの向上など効果を感じています。例えばですが、入力業務については、アウトソーシング導入前の体制では「時間」と「多言語対応などの高度な司書スキル」を一定基準で確保することが難しく、

大量の寄贈や遊及入力、特に古書の入力には通常業務に加えての膨大な労力が必要と感じておりました。アウトソーシングを導入したことにより一定の基準で入力・整理がどんどんと進み、大変助かっています。また閲覧サービスは図書館の開館時間延長をきっかけにアウトソーシングを導入したのですが、それにより職員がレファレンス業務に集中出来る体制が可能となり、レファレンスサービスについても大きく向上したことも効果として感じています。また以前から1日13時間という長い開館時間内に同質の利用者サービスを提供するのは課題だったのですが、アウトソーシングにより標準化出来たことは非常に嬉しいことです。

### 図書館の成長には「立正大学×キャリアパワー」の二人三脚で歩んでいくことが必要。

キャリアパワーとの連携はいかがででしょうか。  
岩場:本学の図書館はラーニング commons の設置や古書資料館の開設、そして11号館の拡充と短期間に大きく変化しましたが、その時期にキャリアパワーは、図書館と一緒に考え、現場のスタッフだけに任せるのではなく、専門の図書館トレーナーや営業担当の方が状況を細かく把握され、きちんと対応をしてくださりました。こういった対応をしていただけることで、図書館が変化を恐れず発展してい

けるのも事実です。営業担当、トレーナーまた現場のスタッフの方がいつも同じ方向性をもって理解してもらえ、それは非常に助かっています。

## 過去に捕らわれず常にアクティブに進み続けたい。

立正大学の特徴的存在でもある古書資料館についてお聞かせください。

**岩場:**では私から本学の特徴的存在でもある古書資料館についてお話をさせて頂きます。以前の古書資料は図書館地下3階の奥の方に大事に保管され、学生には存在さえも認知されておらず、卒論の時や大学院になってから初めて利用される状況でした。ただ古書資料は約4万5千冊所蔵してましたので、かねてよりもっと有効に利用してもらいたいと思っていましたが、本学の付属中学・高等学校の移転を機に、それまで学校で使われていた図書室が古書資料の雰囲気と非常にマッチすること、多くの方に開架で利用して頂くことで古書に親しみ、研究成果にも繋げてもらいたいという図書館の希望が認められ、開館することが出来ました。

また今年、初めて地域の方も参加出来る、連続講座も開催することが出来ました。古書の魅力を多くの方に知ってもらうことが出来たことは非常に良かったと思っています。

**友永:**古書資料館については大学審査時の認証評価でも高く評価してもらいました。あまり他の大学図書館では事例が無いとのこと。地域の方々への社会貢献ということで、先日古書講座を開いたのですが、予想以上の応募があり、抽選せざるを得ない状況でした。

**岩場:**抽選倍率も2倍以上になりましたね。

**友永:**地域の方々へもニーズに応えることが出来たと思っています。

**岩場:**貴重な古書ばかりですので、利用する際のルールも「靴の泥は払う」「傘の持ち込み禁止」「手を洗い・消毒をしてもらう」「消しこむは使えない」「ボールペンも使えない」「コピーは禁止」など、禁止ルールが多いのにも関わらず、古書に囲まれる独特の雰囲気の中だと、利用者もそれらの禁止ルールを特に疎んじることなく、マナーが守られることにはすごく感動しました。学生にとっても改めて本当に良かったと感じています。

## 大学職員、アルバイト、アウトソーシング、派遣と雇用契約は違えども目指す場所は同じ。

司書の業務を運営してもらっている大学職員やアウトソーシングについてお聞かせください。

**友永:**現在、色々な大学図書館でアウトソーシングは導入されており、中には図書館業務を全てアウトソーシングしている大学もあります。しかし、本学では専門性の高いレファレンス業務など、大学職員が責任を持って担当しています。それは大学職員も図書館に在籍している以上、ライブラリアンとして実業務を担当し、内部から図書館を変革して行く一翼を担うべきと考えるからです。大学職員

がマネジメント業務に携わるだけなら、図書館の専門知識や技術はある意味、不要でも良いと思えますが、私は大学職員も図書館の専門的な知識や技術を有することにより図書館に対する「誇り」を持ってもらいたいと強く思います。その「誇り」こそが仕事への責任感や使命感に繋がっていくものとして、非常に重要と考えています。

**岩場:**友永館長のご意見通りですね。多様に変化し続ける世の中ですので、図書館もその多様化に対応するべく日々悩んだり、考えたりとしんどい時もあります。大学職員も柔軟に対応できる様に成長していると感じます。図書館は図書や電子資料、データベースなどのいろいろなメディア、パソコンなどの情報機器、ラーニング commonsなどが備わっている施設となり、職員はその全てに関わっていかねばなりません。全てに携わることにより柔軟に活かしたマネジメントが出来ると私は考えています。

また本学図書館は「りぶたま」と呼んでいる学生アルバイトがいるのですが、「りぶたま」についても大学職員と共に成長していければと考えています。以前は職員の業務を補助する仕事をしてもらっていたのですが、そうなるとうちでもそれぞれが1つの業務だけを経験することになりがちでした。そこでもっと「りぶたま」の可能性に期待して展示や企画など色々な業務をお願いしたところ、行動力と大きな成長に目を見張るものがありました。ただ単に働いてもらうだけではなく、図書館で働く中で主体的な考えと自信を身につけて、社会に送り出したいという考えもありますね。

またアウトソーシングに関して思うことですが、図書館の雇用市場が少ない中で図書館で働きたい方の中には、図書館や本がすごく好きな方や司書資格を持ち勉強をされてきている方が多くいます。是非そういった方達に対してはその情熱に負けないくらいのサポートや司書研修などをしっかりとキャリアパワーにはお願いしたいです。

## 一般企業から教員へ。根幹になるのが数学的なものの考え方。

色々とお話を伺いましたが、最後に館長の経歴をご紹介願えますか。

**友永:**私の専門は数学です。現実と比べて厳密な論理で理論構築して行く、その透明度の高い世界に憧れて純粋数学を専攻しました。テーマは非可換代数、と言ってもピンと来ないでしょうね(笑)。ですから、実務経験中心にお話します。大学院修了後は予備校で数年教えて、知り合いからの話もあり外資系の統計ソフト会社に入りました。顧客は官公庁や大企業が主でしたが、その現場で、統計解析、オペレーションズ・リサーチ、プログラミング、データ処理などを実践的に学びました。大学時代に学ぶことのなかった分野ばかりですが、数学がベースとなるので、苦もなく修得して行けました。現場では大量の実データを扱う訳ですが、そうしたことはなかなか経験できませんので実践的に学ぶ環境としては非常に恵まれていたと思います。こうした経験が大学で教える基盤となっています

が、実は本学に就いて以来、データ処理や統計解析を教えたことはあっても、本来の専門である純粋数学を教えたことはありません。他大学では非常勤としてよく教えました(笑)。

私が教壇に立ったのは1986年です。今は廃止となりましたが熊谷の立正大学短期大学部、立正短大で非常勤としてプログラミングを教えたのが最初です。当時はいわゆるメインフレームの時代であり、コンピュータを動かすにはプログラミング言語が必要でした。一方ではパソコンがマニアックな存在から脱皮し、ワープロや表計算などのアプリケーションソフトをてこに一般に浸透しようとする矢先でもありました。会社と掛け持ちで毎週土曜日に熊谷までCOBOLを5コマ教えるに行きました。その後、某大学でFortranとオペレーションズ・リサーチを教えることにもなりました。プログラミング言語に関してはアセンブラしか知らず、COBOLもFortranも勉強しながら教えていましたが、楽しく学び厳しく教えたので許されるでしょう(笑)。そんな風にして5年が過ぎ立正短大から専任講師の話があり、本学の一員となりました。1991年のことです。その頃にはメインフレームがパソコンに変わり、授業もプログラミング中心からワープロや表計算などのアプリケーション中心に変わりました。短大で初っ端から任された校務は、「入試判定を素得点から偏差値に切り替えるための資料作成」と「入試処理の電算化」です。資料の方は前年度の入試データを元に素得点判定と偏差値判定の比較シミュレーション、及び統計分析を行って50頁程の資料にまとめ、教授会で説明し、なんとか偏差値判定採用を認めてもらいました。入試の電算化については、要件分析、設計、開発、構築、運用の全てを私が行うことになりました。普通に授業を8コマ持ってですよ。短大とはいえ、あの頃の受験生はかなりの人数に上ります。大変ながらも心の中では嬉々としながら何とかシステムを構築し無事にこなしました。次いで2年目、唐突に「今度はマークシート化をしろ」ときました。これもマークシートの設計から全てを任せられましたが、何とかこなしました。入試のマークシート化は本学で初めての試みであって、マークリーダー稼働時には大学の入試関係者がワイワイ集まり、心の中でほそ笑んでました。自前の入試システムは3年目稼働し、4年目からは専門業者にシステム構築を依頼することになり、私の短大における入試業務は終わりました。これは私にとっての現場における実践的な学びの終止符ともなりました。

その後、立正短大が1998年に廃止され、私は文学部社会学に移ることになりました。社会学配属後のことは未だ時効でないのでも口を閉ざしておくことにします(笑)。差し支えないところで、2010年に情報メディアセンター長、そして、図書館が情報メディアセンターから独立した2016年に図書館長を拝命し現在に至っております。

**岩場:**友永館長の「メディアセンター長」としての6年間はまさに図書館の成長と変革への道程そのもので、センター長後も継続して館長を務められたおかげで、メディアセンター時代を経て培った情報系の技術やノウハウ、機能をすべて包含した図

## ■Information

図書館総合展の開催レポート

# 「第18回 図書館総合展」が開催されました

開催期間:2016年11月8日(火)~11月10日(木)

今年も図書館総合展にてキャリアパワー主催のフォーラムを2日に渡って、開催させて頂きました。

お陰様で多くの図書館関係者にご参加頂きました。今年も早い段階で満席となり、大盛況のうちに無事、終了する事が出来ました。

今年の「テーマ」は図書館のテクノロジーにフォーカスをあて、メインテーマを『進化する図書館』テクノロジーがもたらす転換の無効には?と題しまして、昨年同様に3部構成で開催致しました。

### ■PART I

#### 『進化する図書館』テクノロジーがもたらす 転換のむこうには?PART I

~自動化・機械化の進化に伴って、  
その先に図書館はどのように変わるのか~

PART Iでは図書館「平井嘉一郎記念図書館」を開設されました立命館大学 学術情報部次長の近藤様を講師としてお招きし、フォーラムを開催致しました。

近藤様は多くの部署でご活躍されました経験からアドミニストレーターの立場と視点から発表頂きました。

はじめに新しい技術がどのように世界に変化をもたらしているのか?そして、それは大学図書館に今後何をもたらすのか?についてお話を頂き、新図書館の「平井嘉一郎記念図書館」にどのような技術導入をしているのかの事例紹介とともに、これからの大学図書館や大学図書館の職員がどのような事を考えていき、どのような存在になればいいのかお話を頂きました。



### ■PART II

#### 『進化する図書館』テクノロジーがもたらす 転換のむこうには?PART II

~図書館の仕事はすべてロボットに任せる、  
そんな時代が来るのか?~

PART IIでは大阪工業大学図書館館長でもあり、工学部教授の大須賀美恵子様をお招きしロボット工学の視点から「図書館の仕事とロボット」について発表頂きました。

近年、開発によってさらに進化を遂げているロボットの紹介とともに、実際に取り入れている図書館等の事例をご紹介頂きました。

お話の中で現在におけるロボットの得意な事「重労働」「悪環境下でも疲れない」「繰り返し作業でも飽きない」「腹を立てない」等また不得手な事「人の気持ちを汲む」「空気を読んだ対応」を挙げられ、ロボット・AIが人に取って変わるのではなく、人の出来ない事、やりたくない事をロボットが行い、洞察力が必要である複雑な事や曖昧な問題を解く事の判断については人間が行い、ロボット・AIを味方にする考え方が必要であると、大変興味深い内容でした。



### ●セミナーにご参加された方からのご意見 ※一部抜粋

- ・最新の事例に触れる事ができ参考になりました
- ・2日間とも参加させて頂き、とても有意義な内容のお話を伺う事ができました。
- ・今回得られた知識を業務に活用していければと考えております。
- ・ロボット・AIに関してとても参考になりました。近い将来の事と感じました。

### ■ブースのご紹介

今年もキャリアパワー企業ブースでは日頃、大変お世話になっております大学図書館様の取り組みをパネルで展示させて頂きました。多くの方がブースにお越し頂き、取り組みのパネルを大変、熱心にご覧頂きました。各大学の独自の取り組みは大変参考になったとご意見も頂きました。

※ご協力頂きました7大学様

「成城大学様」「工学院大学様」「立命館大学様」「龍谷大学様」「中京大学様」「金沢星陵大学様」「追手門学院大学様」



## ■Support Center News

# 学術サポートセンター通信 Vol.Ⅱ

弊社キャリアパワーでは図書館で働くスタッフさんへの教育やサポート、そしてアウトソーシングの運営サポートに特化した「学術サポートセンター」がございます。この学術サポートセンターは図書館業務とアウトソーシング運営に精通した「プロ」集団です。今回はその学術サポートセンタートレーナー近藤 千佳からの「ワンポイント学習」となります。

### ■トレーナーのご紹介

株式会社キャリアパワー 学術サポートセンター トレーナー 近藤 千佳



図書館トレーナーの近藤千佳と申します。トレーナーとして弊社で受託する大学図書館運営を、利用者サービス・テクニカルサービスの面から支えています。

さまざまな利用者、資料と出会う大学図書館ですが、その現場だけを見ては、その大学図書館の抱える課題の本質やめざす姿には辿りつき難いと感じております。国が高等教育をどのように舵取りしているのか、それを受けて国公立大学はどう動こうとしているのか、各大学の理念・ポリシーに基づいたミッションを図書館が果しているのかといったような、図書館の外から見つめる視点が図書館員にも必要であると考えております。

例えば、理工系大学であれば今年8月に文科省・経産省から発表された「理工系人材育成に関する産学官行動計画」に基づいて、複数分野にまたがった授業や、ICTを使用する教育プログラムの策定が行われる可能性があり、であれば図書館として複数テーマを取り扱う展示企画や、図書館HPにオンライン講義(MOOC)のリンク作成等、必要な施策が自ずと決まってくる。このような視点を以って、大学図書館の課題解決に尽力したいと考えております。

### ■ワンポイント学習

## 「これからの学術情報システム構築検討委員会」について

今や大学図書館業務に欠かせないNACSIS-CAT/ILLシステム(総合目録データベース/図書館間相互貸借サービス)ですが、このシステムのそもそもの始まりは1985年に遡ります。学術情報をとりまく環境は数年スパンで大きく変化しており、30年以上という長い間稼動してきたNACSIS-CAT/ILLシステムではe-Journalなどの電子リソースへの対応が困難です。この電子リソースの利用を推進する方向に変えようと「これからの学術情報システム構築検討委員会」で検討が進められています。

また、NACSIS-CAT/ILLシステムの軽量化・合理化も同時に進められており、2020年に図書レコードが大きく変化すると基本方針が発表されています。

①外部機関作成データを取り込むため、所蔵なしデータや目録規則に準じないデータがある

②目録規則は日本目録規則・英米目録規則からRDAや日本目録規則を改定したものを使用する

これらは大学図書館員にとって非常に大きな変化であるため、従来の感覚との違いに違和感を覚えるかもしれません。2020年までに新しい技術への準備が求められています。

これからの学術情報システム構築検討委員会 <http://www.nii.ac.jp/content/korekara/>

## 「国立国会図書館デジタルコレクション」について

国立国会図書館(NDL)で収集・保存している資料をインターネット上で無償閲覧する事ができるサービスです。

ただし、自宅等の個人のPCからアクセスできる資料は限定されており、公共図書館・大学図書館の一部に本サービス閲覧専用PCが設置されており、そのPCからであればアクセスできる資料は何倍にも拡大されます。このサービスで閲覧できるのは古典籍や1968年までにNDLが受入れた図書や雑誌等、それだけでなく1900年代初頭から1950年頃に国内で製造されたレコード音源を聞く事もできます。

今までであれば、現物を所蔵する図書館から送料をかけて送付していたり、古書店で購入していたものが、インターネット上で自由に閲覧できるようになっています。この便利さをぜひ実感してみてください。

国立国会図書館デジタルコレクションについて <http://dl.ndl.go.jp/>

## ■Study of the library

レファレンス演習のお知らせ

# キャリアパワー「レファレンス演習」を開始致しました

弊社の図書館委託運営チームに就業頂いておりますキャリアパワースタッフの皆様へ、スキル向上の1つとしてこのレファレンス演習に取り組んで頂いております。※レファレンス担当に限らず、図書館業務に携わっている皆様を対象となります。

2ヶ月毎に「キャリアパワー学術サポートセンター」から演習課題が提示され、提出頂いた回答を学術サポートセンターの全トレーナーによる「ベストアンサー」を選び、その結果の講評と共にホームページに公開致します。

調べる過程の共有により今後の業務の参考になればと考えております。また、レファレンス担当でなくとも図書館業務の幅が広がる事と、今後の皆様への新たな知識と自信に繋がる事を期待しております。

第1回目ベストアンサーには「京都学園大学 太秦キャンパス図書館」「北里大学 白金図書館」に決定させて頂きました。おめでとうございます!



書館へ、無理なく移行できたと思います。図書館を担当して思うことですが、社会が多様化し、図書館に求められるものや図書館業務自体も目まぐるしく変化する時代だからこそ、色々と学び、経験することに時間をかける必要があると思います。いつも業務に追われている現実の中で、職員が育ち後進が育成される環境づくりに今後もさらに取り組んでいきたいと思っています。

友永館長と岩場課長より「キャリアパワーさんはこれからどうなっていくのか、お考えを聞かせてもらえますか?」と反対にインタビューも頂き(笑)、終始にこやかにご対応頂きました。図書館から人生学そして教育や人生観などたくさんのお話を頂き、有益なインタビューでした。ご協力ありがとうございました。



## ■ Interview

スタッフインタビュー

### 「チームとして仕事の楽しみや苦しみを共有して全員で喜びたい」



私立大学図書館 閲覧チーム  
統括 長谷川 智砂様

#### ■アクティブな図書館を作っていきたい!利用者の喜ぶ顔が何よりの原動力

まずキャリアパワーで働いたきっかけですが、当時は「次仕事をするなら図書館!」と心に決めており、ちょうどその時に新聞の折り込み広告に「図書館」の文字が見えて、思わずすぐに応募してしまいました。それからもう15年以上も図書館司書として頑張っています!現在は、キャリアパワーが委託運営している京都市内の大学図書館で閲覧チームの「統括」として勤務をしております。閲覧チームは日々16名のスタッフが勤務しており、カウンターも2階、1階、地下1階の3ヶ所と範囲も広く大きなチームを任せてもらっています。閲覧チームの業務は貸出返却、ILL、利用者相談、企画展示、そしてミニガイドランスなど多岐に渡っていますが、特にミニガイドランスは最近、新しく取り組んだ事です。成功と失敗の繰り返しではありましたが、今では約1ヶ月半の期間で100件のお申し込みを頂けるほど好評を頂けており、すごく嬉しく感じています。最近では通常のガイドランスに予約される方も少なくなっていますが、このミニガイドランスは名前の通り1回につき15~30分くらいの時間で終わり、特に予約の必要もなく「ふらっと」立ち寄って参加が出来るコンセプトとしておりますので、参加数も多くなってきていると思っています。

#### ■閲覧チーム全体で喜び、活気に満ちた職場が図書館全体の活性に繋がっていききたい

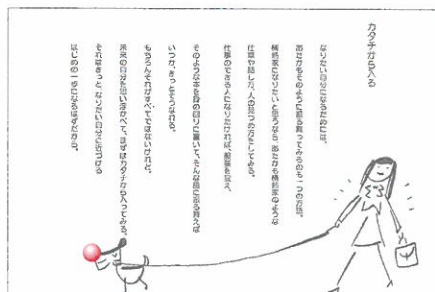
統括として、心がけている事はスタッフから質問や相談があった時にすぐに回答を出すのではなく、一緒に考えるスタンスにしています。その為には聞きやすく、相談しやすい環境作りを意識しています。一緒に考えて一緒に喜びや苦しみを共感していきたいですね。利用者の方がスタッフの対応で喜ばれたら、それに対応したスタッフはもちろん喜びますが、私はそのスタッフを見て更に喜んでいきますね。(笑)そんな私たちの職場ですが、一言で言えば「活気に満ちた」職場です。図書館はどうしても静寂的なイメージがありますが、大学図書館自体が活発に学習する「アクティブラーニング」を推進されている事もあり、その分学生の方やそこで働く私たちもアクティブになってまいりますね!

#### ■休日にもアクティブにB級グルメを探求!仕事もプライベートも探求の日々です!

とにかく趣味は食べる事です!(笑)特にB級グルメは大好きで、中でも肉料理が大好き物です。「牛肉サミット」や京都の「肉祭り」というイベントに参加したり、B級グルメグランプリにも行ったりしましたね。遠方で行けない時はインターネットの写真を見て、味を想像しています。(笑)仕事もプライベートが充実出来ているのはキャリアパワーで勤務しているからこそと思う事もあります。困った時にすぐに相談にのってもらえサポートがしっかりしていると思います。また私には見えなかった課題などもの確に示してもらい、それが自分の成長にも繋がっています。何より私たちを後押ししてくれるから日々、お仕事も頑張れます!!

## ■ Information

### ● ご存知ですか? キャリアパワーのあかいドロップ



「This We Believe...」わたしたちキャリアパワーの信じるところ。その思いから生まれた小さな冊子が「キャリアパワーのあかいドロップ」です。出会うことができたすべてのスタッフの皆様的心里に、私たちの想いをお伝えしたい。そして、一人でも多くの方の心に、その想いを留めてほしい。ずっと変わらぬ思いでお届けしています。ぜひご愛読ください。

ご希望の方に配布中です くわしくはスタッフ企画室まで!

TEL 0120-288-450 Email info@careerpower.co.jp

■ Information

「第14回 京都学生祭典」が開催されました

10月9日(日)、京都平安神宮一帯で第14回京都学生祭典が開催されました。キャリアパワーはこの祭典を第1回目から応援。今年も産学官合同の京都最大級のお祭りをバックアップしました。

当日は「京炎そでふれ! 全国おどりコンテスト」や「Kyoto Student Music Award」、げんきつづランドなど多くの企画が行われました。また、キャリアパワー企業ブースでは、グループを紹介したパネル展示を実施。多くのお客様に目を留めて頂きました。



■ Information

キャリアパワー人事セミナーを開催しました  
「ポケベル世代とSNS世代が共存する組織のコミュニケーションデザイン」

京都大学准教授の塩瀬隆様を講師にお招きし、セミナーを開催しました。

簡単なワークを交えたセミナーを通して、いかに自分達が普段「ふつう」と思っているコミュニケーションの常識が、世帯によっては非常識として伝わらなくなるかということ、「うまく伝わっているはず」と思う一方的な伝達が、まったくと違っていいほど相手に伝わっていない可能性があるということ、などを体感することができました。

また近年話題になっているダイバーシティ&インクルージョンについても、改めて考えさせられることが多かったです。



■ Information

キャリアパワー主催 第2回海外施設見学研修 in 韓国  
日程:2017年6月8日(木)~6月10日(土)

日本全国、世界中には素晴らしい図書館が多く存在しています。

斬新な建築、蔵書、またライブラリアンによる取り組み、サービスの提供等、図書館運営に携わっている私達がまだまだ「知らない」ことが多くあり、また「学び足りない」と感じております。キャリアパワーでは今回「学び」の図書館紀行の一環として、海外の施設見学を開催させて頂きます。国をあげて「国家デジタルライブラリー計画」を推進している韓国にて、各大学図書館の先進的な事例を学び、図書館を運営する私達と、大学図書館のこれからを企画する皆様とが「学び」「見識」を高めることで、プロとして今後の大学図書館運営に活かして頂ければと考えております。



国をあげて「国家デジタルライブラリー計画」を推進している韓国。豊富なデジタル資料の活用など、先進的な事例を学べます。

- 施設予定先
- ① 韓国国立中央図書館
  - ② 成均館大学校・水原キャンパスサムスン学術情報館
  - ③ ソウル大学校中央図書館
  - ④ 高麗大学校図書館
  - ⑤ 延世大学校図書館
  - ⑥ 成均館大学校・ソウルキャンパス中央学術情報館

旅行代金  
お一人様 84,800円(2名1室)

詳細はこちら [www.careerpower.co.jp/service/kaigai2017/](http://www.careerpower.co.jp/service/kaigai2017/)

お問合せ [academy@careerpower.co.jp](mailto:academy@careerpower.co.jp) (担当:霜田)

● 法令遵守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果たすために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なってまいります。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先

株式会社キャリアパワー 法令遵守委員会  
TEL 075-341-2929 E-mail support@careerpower.co.jp

キャリアパワー各支社へは、フリーコール 0120-154-450 にお気軽にお問合わせください

東京: 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル 15F  
大阪: 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング 2F  
名古屋: 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビル8F  
京都: 〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通局丸西入奥室小路町843-2 日本生命京都ヤサカビル 4F  
滋賀: 〒525-0025 滋賀県草津市西浜川1-1-3 リバティハウス4F  
システムセンター: 〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160

TEL.03-6895-2929(代) FAX.03-6895-2911  
TEL.06-6346-2929(代) FAX.06-6345-1268  
TEL.052-563-2929(代) FAX.052-563-3511  
TEL.075-341-2929(代) FAX.075-341-3828  
TEL.077-501-9292(代) FAX.077-501-9200  
TEL.075-344-6776(代) FAX.075-344-6780

発行  
株式会社 キャリアパワー  
企画/制作  
株式会社 キャリアクリエイト  
2017.3.15発行